様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０２３６３

研究課題名（和文）アイルランド現代文学・現代演劇における変身・変容の身体表象

研究課題名（英文）A Study on the Representations of Transfiguration in Anglo-Irish Literature and Drama

研究代表者
坂内　太（SAKAUCHI, FUTOSHI）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：６０４５３９９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：現代アイルランド文学・演劇の主要な作品を巡る変身・変容の表象のジャンル横断的な分析を通じて、その特異性を明示化した。精神変容を巡る伝統的なカトリック文化に対して疑義を提示した諸作品（特にW.W.イェイツ、Ｊ.M.シング、ジェイムズ・ジョイス、サミュエル・ベケットによるもの）に着目し、多くの変身・変容が公共空間・半公共空間で生じ得るものとして描かれている点を明らかにした。また、２０世紀初頭の戯曲で変身・変容のテーマと国家再生のテーマが交錯する点を分析すると共に、アイルランド社会で虐げられた弱者、いわばアイルランド社会における声なき声の存在に焦点を合わせる創作傾向が見られることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
アイルランド現代文学・演劇の諸作品が、伝統的な倫理観や宗教的潔癖性からの「身体性の軽視や否定」という現実を踏まえつつ、社会的・政治的に抑圧された個人の苦悩や国家的疲弊、社会の周縁に追いやられた女性の窮状やトラウマなどを巡る切迫した身体と変容の表象を生み出してきた過程と諸相を明らかにすることで、新たな知見をもたらした。モダニズム文学や不条理演劇という普遍文学や世界演劇の文脈で読み解く先行研究は、具体的なアイルランド性を軽視することで、植民地として多くを簒奪された国家が生み出してきた文学・演劇作品から、さらに個別性を奪い取るという矛盾を生む一面を持っていたが、この点を解消する新たな視点が得られた。

研究成果の概要（英文）：This project clarifies the notable uniqueness of representations of bodies in major works of contemporary Anglo-Irish literature and drama, especially major works by W.B. Yeats, J.M. Synge, James Joyce and Samuel Beckett. Focusing on works that cast doubt on the traditional Catholic culture in terms of psychological transformation, this project also clarifies that many of such transformations have been described in those works as what can occur in public and semi-public spaces, and, by analyzing the intersection of the theme of transformation and the theme of national regeneration, that many writers, poets, and playwrights tend to focus on the vulnerable, oppressed people, namely the voiceless voice, in Irish society.

研究分野：身体表象論

キーワード：変身・変容の表象

１．研究開始当初の背景

本研究は、アイルランド文学・演劇に関する身体表象研究の中に位置づけられる。本研究の推進者は、アイルランドのモダニズム文学における身体イメージのリサーチを重ねてきた。例えば、ジェイムズ・ジョイスの長編小説『ユリシーズ』に現れた身体描写を分析し、夥しい数の登場人物を巡る身体描写が小説全体で丹念に積み重ねられている一方、主人公の身体に関しては外面描写の省略（例えば、口髭が濡れないように内側に髭支えが付いている特殊な茶碗を主人公が使っているにもかかわらず、肝心な髭の描写が無いなど）が徹底されていること、その例外として目や視線の描写だけがあることから、いかに主人公に特殊な千里眼的かつ予言者的神性が与えられているのかを分析した。また、長大な作品中で重大な事件が何一つ起こらず、それゆえ個々の登場人物の日常的な所作が重大事件に左右されることなく自由に活写される過程を分析して、この作品が持つ特異な「身体性」を明らかにした。また、サミュエル・ベケットが、戯曲の中で繰り返し身体の欠損や寸断された身体を描き、暴力に蹂躙された人間がいかに主体性を回復しうるのかを、斬新な演劇的実験を通じて探求したことを明らかにすることで、身体表象論的研究が、アイルランド現代演劇においても有効な視座をもたらしうることを示した。また、ジョイスの『ユリシーズ』が、第一次世界大戦の大量殺戮兵器による大規模な破壊と国家的な荒廃の最中に書かれる一方で、作品中に膨大なカタログ式とも言えるほどの人間群像を盛り込み、それらの人々の日常的な身体性を重視していること、また、サミュエル・ベケットが、第二次世界大戦時にレジスタンス運動や、負傷者を救済する赤十字の活動に加わり、寸断された人間の身体や、尊厳を踏みにじられた人々の肉体的苦痛を目の当たりにしてきたことを確認しつつ、アイルランド文学・演劇のモダニズムを代表するこの二人の作品における人間身体の表象の特異性を探究してきた。そうしたリサーチの過程で、アイルランドの作家、詩人、劇作家たちが、19 世紀末から現在まで、継続的に複雑な身体表象を生み出してきたこと、特に、変身や変容の表象を通じて、植民地支配下で苦悩する個人の精神的自由や、抑圧的な制度下で疲弊する国民のポジティブな変身、さらには疲弊した国家の変容と主体性の獲得などを、様々なジャンルで繰り返し描き出してきたことが次第に分かってきた。本研究における身体表象分析は、こうした予備的な研究を背景にしている。

２．研究の目的

本研究では、アイルランドの 19 世紀末から、文芸復興運動期や独立運動期、世界大戦と戦間期、戦後と現代のそれぞれの時代に現れた多様な変身・変容のテーマとその表象分析に取り組み、これら各々の時期を通底する身体表象論的視座を獲得することを目的とする。特に、精神的変容を巡る伝統的なカトリック文化に対して疑義を唱えたモダニズム文学作品と、20 世紀初頭に公共空間・半公共空間での変身・変容のモチーフを展開した作品群とを比較検討し、変身・変容のテーマと国家再生のテーマが交錯する戯曲や詩劇を分析することで、国家独立運動とナショナリズムが興隆した時期に生み出された身体表象の諸相について検討する。また、アイルランド社会の周縁に追いやられた人々、とりわけ社会的に虐げられた女性や子供の身体表象を含む諸作品の検討を通じて、植民地として抑圧された国家の内側で入れ子式に生じた抑圧を扱う身体表象の諸相と、その波及的な影響、及び、こうした身体表象の特徴を複雑に内包した現代作品の特異性について検討する。

これまでのアイルランド文学・演劇研究において、例えばジェイムズ・ジョイスやサミュエル・ベケットを始めとするアイルランドの作家・劇作家による諸作品を、モダニズム文学や不条理演劇という普遍文学や世界演劇の文脈で読み解く先行研究は多いが、それらは往々にして具体的なアイルランド性を等閑視してきたがゆえに、植民地として多くを簒奪されたアイルランドが生み出してきた文学・演劇作品から、さらに個別性を奪い取るという皮肉な研究方法を助長する一面を持っていたと思われる。同時にまた、小説、戯曲、詩、詩劇等の研究が、各々の芸術メディアに特化した研究を蓄積する過程で、多領域横断的な研究を生み出せずにきた経緯もある。本研究では、そうした先行研究の内包した矛盾を深く念頭に置き、アイルランドの文学的・社会的な個別の文脈を辿りつつ、芸術メディアの諸領域を横断しつつ、変身・変容の主題の特異性を明示化することに努める。

３．研究の方法

本研究は、アイルランド文学・演劇における身体表象の諸相と、それらの相互連関と特異性を明らかにすることを目指すものだが、前提となるのは、身体表象分析を軸とした作品の個別研究、及び、身体表象を中軸とした相互の「間テクスト性」の検討である。その中心となるのは、アイルランド・モダニズム文学・演劇の中核を成すジェイムズ・ジョイスやサミュエル・ベケットらによる小説、戯曲、そのモダニズムの前段階に位置し、ナショナリズムの興隆と国家独立運動に深い影響を与えた W.B.イェイツやＪ.M.シングらによる詩、詩劇、戯曲、また、モダニズム後

期とそれ以後に位置するブライアン・フリール、トム・マーフィー、エンダ・ウォルシュ、シェイマス・ヒーニー、フランク・マックギネス等による演劇・文学作品の分析と比較検討である。これらの分析と検討において、以下の四つを主な課題として設定する。

(1) 20 世紀初頭にアイルランドでのナショナリズムの興隆と国家独立の気運を高めることに寄与した演劇運動と文芸復興の中で、ひときわ大きな役割を果たしたW.B.イェイツやJ.M.シングの諸作品と、モダニズム文学の発展に決定的な影響を及ぼしたジェイムズ・ジョイスの諸作品が、一見するとかけ離れた主題を扱っているように見えて、実のところ変身・変容の身体表象を描き出す上で極めて類似した構造を持っていたばかりでなく、両者が変身・変容の表象の基礎として公共空間や半公共空間を重要視していた共通点の意義とその効果について分析し、後代への影響を検討する。特に、本研究期間中には、2016 年、すなわち、アイルランドの独立運動で最も大きな役割を果たした 1916 年の復活祭蜂起の百年祭を含み、アイルランドのアカデミズムが、1916 年前後の芸術作品に見られるナショナリズムの多角的な再検討に取り組む動きが出ている。例えば、イェイツの戯曲『キャスリーン・ニ・フーリハン』は、主人公の老婆が、自分に協力する若者を得て、瑞々しい女王のごとき姿に変身する筋を持つが、こうした戯曲に含まれる国家再生のヴィジョンに対する学術的な再検討も進んでいる。この戯曲は、1990 年代以降のアイルランドにおける先鋭的なフェミニズムが、男性劇作家による女性の神話化を糾弾して以来、それ以外の視点から扱うことが困難になった経緯を持つ。しかし、近年、この戯曲が女性劇作家グレゴリーと、詩人イェイツとの共作であった証拠が見つかっており、新たな検討の余地が生じている。他にも、20 世紀初頭から復活祭蜂起までの時期には、J.M.シングの『西の国の伊達者』や『聖者の泉』、イェイツの『キャスリーン伯爵夫人』や『鷹の井戸』など、変身・変容のモチーフを扱う多数の作品が生み出されている。アイルランドにおける独立運動再考の中で、こうした作品群に通底する新しい身体表象論的研究を提示することに取り組む。

(2) 第二次世界大戦後のアイルランド文学・演劇で、荒廃した世界像・社会像と重なるように出現してきた、周縁化された女性の苦悩や虐待された子供のトラウマの表象と身体表象の主題との関係を検討し、その文脈と波及的な影響について分析する。また、それらがアイルランド文学史・演劇史の文脈の中で、どのような意義を持つのかを検討する。とりわけ、アイルランド独立運動の最中に盛んに生み出された変身・変容の身体表象が、アイルランドが最終的にイギリス連邦から抜けて完全な独立を果たした 1949 年以後は、植民地としての歴史を直視する従来の方向性を保つ一方で、植民地として抑圧された国家の内側で、女性や子供が虐げられてきた入れ子構造のような抑圧の歴史を直視する方向性をも生み出したという仮説を立て、同様のテーマを持つ作品群をジャンル横断的に考察する。これらの点においては、男性中心的な社会によって「標準的な女性像」が構築され、維持される中で、そこから逸脱した女性たちが社会的な居場所や発言力を喪失して苦悩するテーマや不遇な私生児を扱った諸作品が重要な分析対象となる。例えば、寸断された身体表象を用いたシェイマス・ヒーニーによる 1960 年代後半から 1970 年代の詩や、同時期に、主体性を剥奪された女性の社会的断片性を扱ったベケット作品、性的虐待のトラウマに苦悩する女性を描いたフランク・マックギネスによる戯曲『浮浪者』（1985 年）やテレビドラマ『鶏小屋』(1989 年)、レイプによる妊娠を経験した女性とその子供を巡る苦悩を描いたバーブラ・ニ・フィヴによる戯曲『盗まれた子供』などである。こうした作品は、重要な参照項となる身体表象を含みながら、伝統的なカトリック文化を維持するアイルランド国内では、作品そのものが一般にタブー視され、観察や分析が回避される傾向が根強くある。それゆえ、本研究のような海外からの提言や情報発信が、アイルランドの研究風土に新たな議論の余地を生み出す可能性が大きいと考えられる

(3) トム・マーフィー、ブライアン・フリール、コナー・マクファーソンなど、現代アイルランド演劇の主要な劇作家による諸作品を検討し、変身・変容のテーマの現代的な特異性を明らかにすると共に、20 世紀初頭以降の様々な身体表象との関連を探求する。本研究の最終年度においては、これまでの成果を踏まえて、現存する作家、劇作家の内で最も大きな影響力を持つトム・マーフィー、ブライアン・フリール、コナー・マクファーソン、エンダ・ウォルシュ、の諸作品における複合的な変容・変身の身体表象を検討する。例えば、ブライアン・フリールの『信仰療法師』(1981 年)や『モリー・スウィニー』(1994 年)、トム・マーフィーの『ジーリ・コンサート』(1983 年)や『バリャガンガーラ』(1985 年)、コナー・マクファーソンの『海をゆく者』(2006 年)やエンダ・ウォルシュの『バリトーク』(2014 年)は、抑圧された個人の精神変容や変身、アイルランドにおけるジェンダーの問題、隠喩としての国家の変容とナショナリズムの結びつきなど、20 世紀初頭以降に見られる様々な身体表象の問題を複合的に含んでいる。また、ジェイムズ・ジョイスが小説で追求した「公共空間での告白と変身」というモチーフは、現代演劇において劇場という公共空間での俳優の独白と変身というメタ・シアターの問題として複雑な発展を示

しつつある。本研究では、こうした諸作品に通底する身体表象の問題を検討する。

(4) アイルランド文学・演劇において、男性の劇作家、小説家、詩人たちが、とりわけ変身と変容のテーマを巡り、女性の身体をどのように表象してきたのか、また、そうした身体表象を通じて、アイルランドの現実のどのような状況と対峙し、創作行為にどのような意義を見出してきたのかを検討する。また、変身・変容のテーマと密接な関係を持つと考えられる公共空間・半公共空間の表象を検討し、この空間表象に関して研究を進めている国内外の研究者との討議を重ねる。例えば、アングロ・アイリッシュの邸宅における客間が、サロン文化や精神的交流を活性化する場として機能した経緯と影響については、客間や同種の空間のカルチュラルスタディーズを推進する研究者たちが大きな成果を示してきた。本研究の変身・変容の表象分析と重なる部分があり、相互補完的な研究が期待される。これらの成果を一般の聴衆に開かれたシンポジウムで発表する。

４．研究成果

現代アイルランド文学・演劇の主要な作品を巡る変身・変容の表象のジャンル横断的な分析を通じて、その特異性を明示化した。精神的な変容を巡る伝統的なカトリック文化や国家と教会の在り方に対して疑義を提示した諸作品（特に W.B.イェイツ、J.M.シング、ジェイムズ・ジョイス、サミュエル・ベケットによる諸作品）に着目し、多くの変身・変容が公共空間・半公共空間で生じ得るものとして描かれている点を明らかにした。また、20 世紀初頭の戯曲で、個人の変身や精神的変容のテーマと、国家の再生や変容のテーマが交錯する諸相を明らかにすると共に、アイルランド社会の周縁に追いやられたり、社会的に虐げられたりする弱者、いわばアイルランド社会における声なき声の存在に焦点を合わせた身体表象を生み出す創作傾向が見られることを明らかにした。

アイルランド現代文学・演劇の諸作品が、伝統的な倫理観や宗教的潔癖性からの「身体性の軽視や否定」という現実を踏まえつつ、社会的・政治的に抑圧された個人の苦悩や国家的疲弊、社会の周縁に追いやられた女性の窮状やトラウマなどを巡る切迫した身体と変容の表象を生み出してきた過程と諸相を明らかにすることで、新たな知見をもたらした。モダニズム文学や不条理演劇という普遍文学や世界演劇の文脈で読み解く先行研究は、具体的なアイルランド性を軽視することで、植民地として多くを簒奪された国家が生み出してきた文学・演劇作品から、さらに個別性を奪い取るという矛盾を生む一面を持っていたが、この点を解消する新たな視点が得られた。

また、本研究では、アイルランド文学・演劇における男性劇作家、詩人、小説家たちによる、特に変身・変容をテーマとした女性の表象について検討を重ね、アイルランド社会の現実が女性の身体を抑圧する傾向（例えば、妊娠中絶の禁止を維持したり、女性を家庭に縛り付けようとしたりする様々な社会的・政治的・宗教的傾向）を、そうした作家たちが作中で明示化・パロディ化すると共に、男性中心的な社会で女性が抱える性的トラウマや苦悩を丹念に描き出そうとする共通項を持つことを明らかにした。

また、本研究は、アイルランド文化における公共空間・半公共空間の表象と機能を巡る歴史研究との結節点を見出すことで、精神変容と変身の表象が、アイルランドにおける宗教の世俗化の過程、教会の世俗的な等価物の重要性が増す過程と密接に結びついている可能性を明らかにすることで、新たな研究の展望を得るに至った。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 3 件）

① Sakauchi Futoshi, ‘ Trauma and Theatre: Struggling to Make Devastated Female Bodies and Minds Visible ’ , 『早稲田大学大学院文学研究科紀要紀要 第 61 輯』,査読無, 2016, 49-58

② Sakauchi Futoshi, ‘ A Study on the Representations of Women in Plight in Contemporary Irish Theatre ’ ,『早稲田大学大学院文学研究科紀要第 62 輯』第 3 分冊, 査読無, 2017, 389-398

③ 坂内太、「公共空間・相互扶助・変身」、『表象・メディア研究』第 8 号,査読無、2018、1-16

〔学会発表〕（計 2 件）

① 坂内太,「変容のヴィジョン――イェイツ、シング、ジョイス」.日本イェイツ協会, 2015.

② Futoshi Sakauchi, ‘ A Spatial Approach to Anglo-Irish Writings ’ .早稲田大学文学学術院表象・メディア論コース主催国際シンポジウム, 2018.

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：
ローマ字氏名：
所属研究機関名：
部局名：
職名：
研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。